

東南アジアの データセンター業界におけるビジネス機会

東南アジアにおけるデータセンター業界の現状

東南アジアのデータセンターマーケットは、世界でも最も急成長している市場の一つです。クラウドサービスの普及や5Gネットワークの導入が主な成長要因であり、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナムでは今後もデータ生成量が増加し、データセンターの需要が高まると予測されています。特にシンガポールは1GWの稼働容量を持つ成熟市場であり、2024年には「グリーン・データセンター・ロードマップ」を発表し、環境に配慮したさらなる拡張を目指しています。また、インドネシアとマレーシアも急成長中で、デジタル経済の発展に伴い、ジャカルタやクアラルンプールを中心に積極的な投資が行われています。今後3-4年以内にデータセンター市場規模（コロケーションサービス金額ベース）は2-3倍に拡大すると予測されており、建設予定のデータセンターの多くは、高性能かつ大規模なハイパースケール施設が中心となっています。

データセンター市場の成長を支える需要要因

データセンター需要の成長を牽引しているのは、一つはクラウドコンピューティングの普及です。例えばマレーシアでは、政府が2024年までにクラウド導入率を50%に引き上げる「クラウド・ファースト戦略」を導入しました。インドネシアではクラウド市場が過去5年間で年平均成長率48%を記録しており、ASEAN全体のクラウド市場は2022年から2027年にかけて年率21%の成長が期待されています。これに応じて、マイクロソフトやアリババなど大手クラウドプロバイダーは、ASEAN地域でのインフラ投資を強化しています。もう一つの要因は、生成AIの普及です。大規模な言語モデルや画像生成モデルのトレーニングや推論には膨大な計算資源が必要であり、対応するためには大量のGPUなどの高性能チップが求められます。これは従来のCPUベースのシステムと比べ、より多くの電力と冷却を必要とし、物理的スペースも占有しま

す。その結果、高性能かつ大規模なハイパースケールデータセンターが必要となり、2028年までにデータセンターの平均容量は2022年比で倍増し、全体の容量は3倍に達すると予測されています。

生成AIと脱炭素トレンドが生み出す新しいビジネスチャンス

生成AIの普及により、データセンターの計算負荷と消費電力が急増しており、エネルギー供給の問題が深刻化しています。例えば、ChatGPTの1回の応答にはGoogle検索の10倍もの電力が必要であり、データセンター全体の消費電力は2026年までに倍増すると言われています。この課題に対して、データセンターの消費電力を削減して効率化するハードウェアやソフトウェアの提供をするなど、新たなビジネス機会が生まれています。シンガポールのKoolLogix社は、独自の熱除去システムを用いて、従来の冷却方法に比べて大幅なエネルギー消費量の削減を実現しています。こうした新しい技術を持つプレイヤーとの提携は、生成AIや脱炭素という二つの巨大トレンドで変革しているデータセンター業界の、探索手段の一つとして有効です。

IGPIシンガポールは、データセンター関連企業の経営関与経験や東南アジアにおける関連ネットワークを活かして、同領域における事業機会探索のご支援を強化しています。



執筆者紹介

IGPIシンガポール マネジャー

李 鍾宇 Jongwoo Lee

あずさ監査法人、アビームコンサルティングを経て現職。現在はシンガポールを拠点として、域内での日本企業の新規事業/イノベーション創出に関連する調査業務、コンサルティング業務などに従事。東京大学経済学部卒。公認会計士。

IGPIシンガポールについて

株式会社 経営共創基盤 Industrial Growth Platform, Inc. (IGPI) は東京に本社を置き、長期的・持続的な企業価値・事業価値の向上を目的とした『常駐協業(ハンズオン)型成長支援』を軸に、企業や事業の様々な発展段階における経営支援を実施しております。シンガポールでは2013年に設立以来、日本企業に加え、東南アジア各国の政府機関やスタートアップ企業など数多くのクライアントとの長期的な信頼関係を構築してまいりました。 [✉ info_singapore@igpi.co.jp](mailto:info_singapore@igpi.co.jp)

主な支援テーマ

- グローバル拡大
- 新規事業開発・オープンイノベーション
- 海外子会社の収益改善
- 地域統括拠点の機能強化
- 現地パートナーの探索・提携
- クロスボーダー M&A